

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛先) 京都府知事	平成23年 7月 日
住所（法人にあつては、主たる事務所の所在地） 京都府長岡京市神足暮角1番地1	氏名（法人にあつては、名称及び代表者の氏名） 株式会社ツバキエマソン 代表取締役社長 市川 直

環境マネジメントシステムの名称	環境マネジメントシステム ISO14001
適用範囲	株式会社ツバキエマソン 本社工場、兵庫工場、岡山工場
導入年月日	2004年 12月 16日
認証番号	JQA-EM6522
基本方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境汚染の予防と環境マネジメントシステムの継続的改善を行います。</li> <li>2. 関連する法規制・協定及び顧客要求事項等を順守します。</li> <li>3. 全構成員が環境方針の理解を深めると共に、環境保全の重要性を自覚して、その維持・向上に努めます。</li> <li>4. 下記項目を重点テーマにあげ、目的・目標を定めて環境負荷の低減に継続的に取り組みます。 (1)エネルギー使用量の低減、(2)廃棄物排出量の削減、(3)有害化学物質使用量の削減、(4)グリーン調達促進、(5)環境に優しい製品設計の導入</li> </ol>
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 省エネ…エネルギー使用量及びCO2排出量総量及び原単位を2015年度に10%削減（2005年度比）、毎年1%削減</li> <li>2. 省資源…①ゼロエミッション（再資源化率98%）の達成と維持 ②産業廃棄物排出量を2015年度までに原単位20%削減（2005年度比） ③一般ゴミ排出量を2015年度までに原単位70%削減（2005年度比）</li> <li>3. 環境保全…排水、排液、排気等の環境基準の厳守および自主基準を守る。</li> <li>4. エコ活動…①グリーン調達の推進、②環境配慮設計・商品の拡大</li> <li>5. EMSの維持向上と継続的改善</li> </ol>
目標を達成するための取組の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 省エネ…冷暖房温度の管理、照明の間引き・減灯・LED化、設備の省エネ型への更新、生産性向上策の実施 等。</li> <li>2. 省資源…廃棄物リサイクル化の推進、分別徹底と廃棄量の削減。ペーパレス化の推進。</li> <li>3. 環境保全…規制基準、自主基準の順守</li> <li>4. エコ活動…エコ商品の拡大</li> <li>5. EMS…ISO14001の継続的改善</li> </ol>
目標を達成するための取組の進捗状況	<p>各項目共、上記取組みを計画的に推進しており、主なものは下記の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 省エネ…冷暖房温度管理（夏：28℃、冬：20℃）、照明の間引き・減灯の実施済。省エネ機器への順次更新実施。</li> <li>2. 省資源…廃棄物リサイクル化の順次実施、再利用化の拡大 等。</li> <li>3. エコ活動…エコ商品の販売比率、販売件数向上策の順次実施。</li> </ol>
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 省エネ…2010年度CO2排出量実績は2005年度比で総量-15.7%、原単位+2.6%で推移。</li> <li>2. 省資源… ①2010年度実績は再資源化率98.8%と目標以上を維持。 ②産業廃棄物排出量の2010年度実績は原単位+1%（2005年度比）と目標以下で推移。 ③一般ゴミ排出量の2010年度実績は原単位-83%（2005年度比）と目標以上で推移。</li> <li>3. エコ活動…商品への有害化学物質の含有削減、環境に配慮したエコ商品の拡大を順次展開している。</li> </ol>
事業活動に係る法令の遵守の状況	法規条例とも順守しており、問題なし。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	環境マネジメントシステムの評価・見直しについては、半年毎にレビューを行い、継続的な改善を図っている。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムの内容について第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。